

「非認知能力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

このリーフレットで紹介した「学びの芽」に関連して、「非認知能力」という言葉がメディアなどで取り上げられており、注目を集めています。「非認知能力」は、粘り強さや協調性、自信、自制心など幅広い力や姿勢を含み、学業や仕事など子どもの将来にも大きく影響するとされており、特に、幼児期から育成することが重要とも言われています。「非認知能力」を育むことで「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に近づいていきます。

今、教育・保育の現場では、幼稚園、保育所等と小学校との円滑な接続を図り、子どもの育ちをしっかりと支援する体制をつくることが重視されています。特に、平成30年度から、幼稚園、保育所等や小学校の先生は、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりにして、幼児の成長を共有し教育・保育活動に取り組むこととなっています。

なお、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、到達すべき目標ではないこと、個別に取り出されて指導されるものではないこと、一人一人の発達に応じて育まれていくもので全ての幼児に同じように見られるものではないことに、十分留意する必要があります。

子どもの育ちと「学びの芽」

私の家は田園地帯にあり、孫と時々散歩をします。ある日、ぱっと飛び立った白鷺を見て、4歳になったばかりの孫が、「白鷺は飛ぶときに足をそろえるね」と言うので、「すごいことを見付けたね。他には？」と問い返したら、「バッタやかえるも足をそろえてジャンプする」と教えてくれました。動物の生態や習慣を見事に見抜いています。環境を通して学ぶ幼児期にとって、植物や生き物、水、砂、土、泥、風、雪、雨などは、自然がもたらすかけがえのない教材です。

この時期、遊びの環境を整えることも大切ですが、先生や保護者が、寄り添い、見守り、認めたり励ましたりすることも大切です。子どもの何気ない気付きや発見、驚きなどを一緒に感動し、子どもにフィードバックすることで、思考力や認識力、意欲などの「学びの芽」が育まれます。情報化社会のデジタル化が進み便利になった時代だからこそ、アナログである遊びが大切です。一緒に散歩を楽しむ、絵本を一緒に読む、色水遊びや公園での砂遊びなどを一緒に楽しむなど、大人が関わり、子どもの思いや行為を価値付けることで「学びの芽」はもとより、様々な力が育っていきます。

小学校の学習とは違って、幼児期の遊びの中の学びは見えにくいと言われています。そこで、可視化を図るために、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が出されました。本リーフレットは、幼児期の遊びの中の学びをよく捉えています。皆さんで共有し、明日を担う子どもたちと一緒に育ててくださることを願っています。

鳴門教育大学大学院 学校教育研究科 教授 木下 光二

写真提供園

玉野市立荘内南幼稚園 総社市立山手幼稚園
高梁市立川上こども園 赤磐市立山陽西幼稚園
真庭市立天津幼稚園（現こども園）
美作市立湯郷幼稚園

お問い合わせ先

岡山県教育庁義務教育課
〒700-8570 岡山市北区内山下2-4-6
電話 (086)226-7584 (直通)
FAX (086)224-3035

幼児期の育ちの姿

—遊びを通して「学びの芽」を育もう—



右上：砂遊びに夢中になっている幼児
左下：収穫したキュウリの感触を確かめる幼児

このたび新しくなる幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針では、共通して「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示されており、目指す教育・保育の方向性を幼児教育に関わる全ての関係職員が共有し、一人一人の子どもの育ちを促していきます。

幼児期の子どもは、遊びを通して、様々なことに挑戦したり、自分の思いや考えを伝えたり、友達と力を合わせてやり遂げたりする経験をし、その中で、小学校以降の学習や生活につながる「学びの芽」が育まれ、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に近づいていきます。家庭においても「学びの芽」を育む機会はたくさんあり、保護者の皆さんにも「学びの芽」について知っていただくことで、子育てを見つめ直すきっかけになればと思っています。

このリーフレットは、幼稚園、保育所等での遊びの中で、子どもにどんな「学びの芽」が育っているか、また、家庭でのどんな場面に「学びの芽」があるか、その場面で家庭でどう子どもへ関わればよいのかを紹介しています。幼稚園、保育所等での教育・保育と、家庭での関わりとが両輪となって、子どもにしっかりと「学びの芽」が育まれていくことを願っています。

平成 30 年 3 月
岡山県幼児教育調査研究実行委員会

例えば幼稚園、保育所等では



「2つのといをつなげたい」友達がトンネルで樋の間をつなげているのを見て、繰り返し試しているうち、ついにつながりました。



階段の手すりを道に見立てセロテープの芯を転がしますが、途中で落ちてしまいます。牛乳パックで手すりに壁を付けることを思いつき、時間をかけて完成させました。



「カチカチのどろだんごをつくりたい」いろいろな場所の土で団子を作りました。固さの違いを確かめながら、やっと固い団子ができました。



新聞紙で細い剣を思うように作れずにいる友達を見つけ、手伝っています。友達は、「あとは自分でやってみよう」と再挑戦し、剣を完成させました。



足洗い場に偶然できた虹に興味津々。水鉄砲を一齐に空に向けて噴射したら大きな虹ができるのでは、と何度もみんなで挑戦して、ついに虹ができました。

主な「学びの芽」

達成感を味わい自信を持つことができます。

自立心

試したり工夫したりする楽しさを味わっています。

思考力

ものの仕組みに気付き、考えたり予想したり工夫したりして楽しんでいます。

思考力

遊びの中で数量や図形に親しむ経験を重ね、関心を高めています。

数量や図形

達成感を味わい自信を持つことができます。

自立心

感動する体験を通して、身近な自然への関心が高まっています。

自然

友達と関わる中で思いや考えを共有し充実感を楽しんでいます。

協同性

友達と心を通わせる中で、言葉による伝え合いを楽しんでいます。

言葉

友達と関わる中で、共通の目的に向けて思いや考えを共有し充実感を味わっています。

協同性

情報を伝え合い、共有しながら活動する喜びを味わっています。

社会生活

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

(幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針等より)

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

主な「学びの芽」

自分のやりたいことに向かったのびのびと遊びを楽しんでいます。

健康

仲よく遊んだり、けんかしたりして、友達とのよりよい関わりを学んでいます。

協同性

正しい行動について繰り返し教わり、ルールを守ることの大切さを学んでいます。

道徳性

人との関わりを通して、社会とのつながりを意識しています。

社会生活

任されること、やりとげることによって自信を持つことができます。

自立心

身の回りのものに積極的に関わり工夫する楽しさを味わっています。

思考力

家族に気持ちを受けとめてもらい、言葉による伝え合いを楽しんでいます。

言葉

感じたことや考えたことを表現する喜びを味わっています。

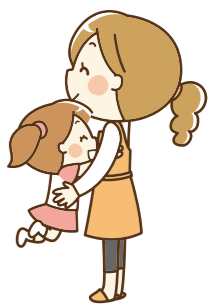
感性

例えばご家庭では

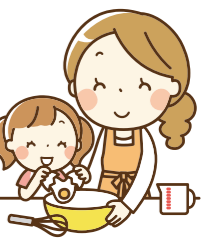
道ばたの虫や草花を観察したりさわったり、泥んこ遊びに夢中になったり。子どもは体や服が汚れるのも気にせず、自然と関わって遊びます。安全に配慮しながら、気持ちに余裕を持って一緒に遊びましょう。



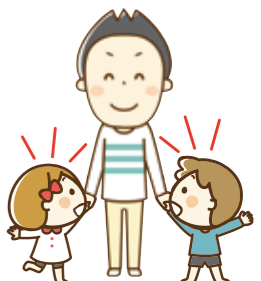
子どもが間違ったことを繰り返したり、人に迷惑をかけた時、どんな声をかけたらよいか迷うことがありますか。どうしたらよかったか一緒に考えたり大切なことは根気よく伝えていきましょう。うまくいった時はしっかりほめましょう。



「やりたい!でも、うまくできない」お手伝いではそんな場面がよくあります。多少時間がかかっても子どもに任せ、進んでする姿が見られたら、「助かったよ」と感謝の気持ちを伝えましょう。



「え〜と、あのね…」子どもは話しながら考えを少しずつまとめています。話の途中でさえぎったり結論を急いだりせず、目を見て「どうしたの?」「ゆっくりでいいよ」など、根気強く話を促しましょう。



※「学びの芽」は、一つの場面にいくつもあります。ここでは、主なものや特徴的なものを2つずつ取り上げて説明しています。

小学校の学びへ

※ 感性 は 豊かな感性と表現 に対応しています。